

練習問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

次の日一郎は、あのおかしな子供が、今日からほんとうに学校へ来て本を読んだりするかどうか早く見たいような気がして、いつもより早く嘉助をさそいました。ところが嘉助の方は一郎よりもっとそう考えていたと見えて、とうにごはんもたべ、ふろしきにツツんだ本ももって、家の前へ出て一郎を待っていたのでした。二人は途中もその子のことをはなしながら学校へ来ました。すると運動場には小さな子供らもう七・八人集まっています、棒かくしをしていましたが、その子はまだ来ていませんでした。また昨日のように教室の中にいるのかと思って中をのぞいて見ましたが、教室の中はしんとして誰もいず、黒板の上には昨日そうじのとき、ぞうきんでふいたあとがかわいてぼんやり白い縞になっていました。

「昨日のやつまだ来ていないな。」一郎が言いました。「うん。」嘉助も言ってそこらを見まわしました。

一郎はそこで鉄棒の下へ行ってじゃみ上りというやり方で、無理やりに鉄棒の上のぼり、両腕を寄せて右の腕木に行くと、そこへこしかけて、昨日三郎の行った方をじっと見おろして待っていました。谷川はそっちの方へ光ってながれて行き、その下の山の上の方では風も吹いているらしく、萱が白く波立っていました。嘉助もやっぱりその柱の下でじっとそっちを見て待っていました。ところが二人はそんなに永く待つこともありませんでした。「来たぞ。」と一郎が思わず下にいる嘉助へ叫ぼうとしていますと、早くも三郎はどてをぐるっとまわって、E正門を入れて来ると、「おはよう。」とはっきり言いました。みんなはいっしょにそっちをふり向きまし

が、一人もヘンジをしたものがありませんでした。それはへんじをしないのではなくて、みんなは先生にはいつでも「おはようございます。」というように習っていたのでしたが、おたがいに「おはよう。」なんて言ったことがなかったのに、三郎にそう言われても、一郎や嘉助はあんまりにわかで、また勢がいいので、F臆してしまって、一郎も嘉助も口の中でおはようというかわりに、もにやもにやと言ってしまったのでした。

ところが三郎の方は、べつだんそれを苦にする風もなく、二・三歩また前へ進むとじっと立って、そのまっ黒な眼でぐるっと運動場じゅうを見まわしました。そしてしばらく誰か遊ぶ相手がないかさがしているようでした。けれどもみんなきろろ三郎の方は見えても、やはりいそがしそうに棒かくしをしたり、三郎の方へ行くものがありました。三郎はちよつとぐあいが悪いようにそこにつっ立っていました。また運動場をもう一度見まわしました。それからぜんたいこの運動場は何間あるかというように、正門から玄関まで大股に歩数を数えながら歩きはじめました。一郎は急いで鉄棒をはねおりに、嘉助とやらんで息をこらしてそれを見ました。

(宮沢賢治『風の又三郎』)

注1 臆して＝気がおくれして。おどおどして。

注2 間＝長さの単位。一間は約一・八メートル。

問一 線ア・イのかたかなを漢字に直しなさい。

ア

イ

問二

□ A S F にあてはまることばとして適当なものを次から選

- び、それぞれ記号で答えなさい。(同じものは二度使えません。)
- ア どんどん イ いろいろ ウ だんだん
- エ どうとう オ ときどき カ きらきら

問三

この文章には、次の一文がぬけています。もとにもどすとすると、どこに入れたらよいですか。この一文のあとに続く文の初めの五字を書きぬきなさい。(句読点や記号も字数に、くくみます。)

それは突然三郎がその下手のみちから灰色のかばんを右手にかかえて、走るように出て来たのです。

D	A
E	B
F	C

問四

線①「あのおかしな子供」について、次の(1)・(2)に答えなさい。

(1) この子供の名前を答えなさい。

□

(2) この子供は、(1)の名前とは別に何と呼ばれていますか。文中から五字で書きぬきなさい。

□

問五

線②「そう考えていた」の「そう」が指している部分を文中からさがし、その初めと終わりの五字を書きぬきなさい。

初め

□

問六

線③「無理やりに」には、一郎のどんな気持ちが表れていますか。適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア どうしても鉄棒が上手になりたい。
- イ 鉄棒の上へのぼり、みんなにじまみたい。
- ウ 三郎が来るまでに鉄棒の練習をしたい。
- エ 三郎が来るのをどうしても早く見たい。

問七

線④「そっち」が指す方向を文中から九字で書きぬきなさい。

□

問八

線⑤「にわか」の意味として適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 大声 イ 早口
- ウ とつ然 エ 元氣

□

問九

線⑥「けれども……ありませんでした」とありますが、それはなぜですか。適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 三郎と遊ぶより、自分たちだけで遊んだほうが楽しいから。
- イ 三郎が乱暴そうなので、近づくのが恐ろしいから。
- ウ 三郎と遊びたいのだが、三郎が声をかけてくれないから。
- エ 三郎のことは気になるが、なんとなく臆してしま

□

問十

線⑦「息をこらして」とは、どういう意味ですか。適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア じっと動かずに イ ゆったり落ちついて
- ウ とても不思議そうに エ はっとおどろいて

□

終わり

□

練習問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

小平さんは、真っ白な布⑦で、松吉の首から下を包んでしまいました。手も出ませんでした。

小平さんはどこから、バリカンを取り出して来ました。バリカンは家のと同じもののように見えました。バリカンがさわったとき、松吉は思わず **A** をすくめました。このバリカンもかみつくとお思ったのです。

ポロリと白い布の上に落ちて来たものを見ると、かられた、黒い、自分の髪かみの毛けでした。なアんだ、もう、かられているのか、と思いましたが。ちっとも痛いたくないではありませんか。(a) 松吉は、やっ**B** の力をぬきました。

髪かみがかられてしまうと、松吉は、これでおしまいだと思いました。家ではいつでも、それだけだったからです。ところがおどろいたことには、腰こしかけが、キーとかすかな音を立てて、後ろへたおれていききました。

「あっ」と松吉は声をたてました。(b)、腰かけはたおれたのではありませんでした。もたれだけが後ろにのびて、腰こしかけている人があお向けに寝ねるようになっただけでした。

天井てんじやうの白壁しろかべや、キャベツの玉のような形の大きい、すりガラスの電灯でんとうを見ていると、とつぜん、顔かほいちめん、だつとなにか熱いぬれたものをのせられて、目も見えなくなっていました。見ていた杉すぎ作さくが、おかしかったのか、ハハハハ、と笑っています。松吉も笑いたいのですが、顔かほがふさがって笑うことができせん。人間にんげんは顔かほで笑うのだということがよくわかりました。顔かほにのせられたのはむしタオ

ルでありました。

小平さんは、タオルをのけると、太い筆のようなものでせっけんせっけんのあわを松吉の顔かほにぬり、かみそりで、額ひたい際ぎわからそり始めました。

松吉はそのとき、小平さんがまだ子どもで村にいたころ、松吉たちによくいたずらをしたことを、また思い出しました。小平さんはよく後ろから、そっと来て、人の背せ中なかへ手を入れたり、わきの下をくすぐったりしました。そして、小さい目を細くしてにやにや笑っていました。

いまま、松吉は、小平さんが、そんないたずらを、始めるのではな**C** の落ち着かぬ思おもいでした。ことに小平さんが、松吉の耳をつまんで、二度ばかり、耳の毛をそったときには、松吉は、てつきり、小平さんが、むかしのいたずらを始めた、と思いました。もう少して、クツクツと笑いだすところでした。しかし小平さんの顔を見ますと、まじめな顔をしていました。遊あそびびをしているのではない、仕事しごとをしているおとなの顔つきでありました。

松吉には、小平さんがおとなになったからもう遊あそばないということ⑥がわかりました。おとなは仕事をするのです。たとえ、人の耳をつまんでそるといふような、いたずらみたいなことでも小平さんは、仕事しごとですから、まじめにするのです。松吉には、おとなになるといふのは、ふざけるのをやめて、まじめになる約束やくそくのように思おもわれました。なん⑦となくさみしい感じがしました。

(新美南吉『いぼ』)

問一 線ア・イの漢字の読みを書きなさい。

ア

イ

問二

□ AとCにあてはまることばとして適当てきとうなものを次から選
び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 顔 イ ロ ウ 首
- エ 鼻 オ 目 カ 耳
- キ おなか ク 背中 ケ おしり
- コ 肩かた

A	
B	
C	

問三

() a・bにあてはまることばとして適当なものを次か
ら選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア また イ しかし ウ しかも
- エ そこで オ むしろ

a	
b	

問四

——線①「やっと安心して」とありますが、松吉が安心したの
はなぜですか。適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 小平さんがやりやすいように、動かないでじっとしていた緊
張感ちやうがほぐれたため。

イ バリカンの音が思ったより大きくなって、ちっともこわくな
かったため。

ウ バリカンで痛い思いをするかと思ったが、少しも痛くなかつ
たため。

エ 鏡にうつった自分の髪の毛のぐあいがかっこよく
なってきたため。

問五

——線②「それだけ」の「それ」はどんなことを指しています
か。「…で〜こと」という形で答えなさい。

問六

——線③「腰かけている人」とは、この場合だれのことですか。
文中から書きぬきなさい。

問七

——線④「いたずら」とありますが、小平さんがむかし松吉た
ちにしていたいたずらの内容ないようを、「〜こと」につながる形で、文
中のことばを使って答えなさい。

問八

——線⑤「もう少しで、クックツと笑いだすところでした」と
ありますが、松吉はなぜ笑いだしそうになったのですか。

問九

——線⑥「おとなは仕事をするので」とありますが、小平さ
んの仕事は何ですか。

問十

——線⑦「なんとなくさみしい感じがしました」とありますが、
松吉はどうしてさみしいと感じたのですか。適当なものを次から
選び、記号で答えなさい。

ア 小平さんと遊び相手としてのつき合いはもうできないから。

イ 小平さんは仕事がいそがしく、遊ぶ時間がなくなったから。

ウ 小平さんと遠くはなれて、なかなか会えなくなったから。

エ 小平さんに髪の毛をかられて、頭の辺りがすっきりしたから。